

福知山市自治基本条例推進委員会 Bグループ部会(第1回)概要報告

〔日 時〕令和4年9月20日(火)9:30~11:30

〔場 所〕市民交流プラザふくちやま

〔出席者〕委員…11人、事務局…5人、傍聴者…0人

■ 開会

■ 挨拶

■ 自己紹介、アイスブレイク

■ 前回のふりかえり

■ 提案⑭ 担い手が少なくなってきた時代に対応し、自治会等の活動を見直し、開かれた運営を行っていかう

【自治会のいいところ・強み】

- ・一人ではできない地域の行事、作業がしやすい。
- ・地域の伝統・行事が受けつがれている。
- ・防災。お年寄りなどに声掛け合って逃げる行動ができる。
- ・行政に要望ができる。
- ・地域の見守り。
- ・地域で得意なことで助け合える。自治会としての繋がりがあるので、自分で新たに関係を構築する必要がない。
- ・助け合い(共助)ができて、お互いの顔が見えること。良くも悪くもではあるが、情報共有がしやすいこと。

【自治会の弱み・課題】

- ・慢性的な役員のなり手不足。
- ・自治会長等の役が任期制になっているところも少なくなく、とりあえず任期を全うすればよいという考えの人が一定いること。
- ・高齢化により、作業・行事への参加者減少。

- ・組回覧など、紙の配布物が多い。
- ・マンション・アパートの住人に、配布物や自治会の資料が届いていないことがある。
- ・お互いに監視するような関係になってしまったり、年功序列が出やすかったりすること。
- ・良くも悪くも地域の構成員が似たような考えの人が多くなり、多様性がないように思う。子どもには外に出てほしいと思う一方、大人が自分の地域を悪く言って「こんなところに居てもダメ」というのはどうかと思う。
- ・参加形式が世帯から代表で1人となると参加しにくい。

【提案 14 を実現していくためには】

- ・地域のことは地域でやるという、住民の自治意識の向上をめざす。
- ・自治会長は地域のリーダーだと意識していただくこと。
- ・自治会の中で、自治会員の自発的な活動を応援する。決まったことをしていただくだけではないという姿勢も大切なのでは。
- ・組織構造上難しいのかもしれないが、行政が現場主義に変わっていくことが必要。
- ・役員を減らし、若者が参加できる場を作る。
- ・ICT化を進める。
- ・負担軽減のため、行政からの通知は時期をまとめる。
- ・自主防災組織立ち上げをきっかけに、自治会活動に関わってもらおうよう促す。
- ・行政は情報共有のためにも、横の連携を強化してほしい。
- ・自治会の自慢話(わがまち自慢)をする機会を作り、そこに移住者を呼ぶ。
- ・自治会の取組みテーマを絞ることはどうか。今年は〇〇をする、来年は〇〇・・・というように、1度にあれもこれも欲張らないことが大切。
- ・すでに取り組みされている自治会もあるが、実行委員会形式にし、世帯から代表してではなく、できる人ができることをやるようにする。
- ・時代にそくした自治会活動を進めるためにも、住民同士の意識・考え方のズレを埋めることは大切。
- ・SNS等を活用し、地域活動の担い手を外に求めてみるのも一つ。